

平成30年度使用小学校用教科用図書

「特別の教科 道徳」

選定理由書

北諸県採択地区協議会

1 平成 30 年度使用小学校用教科用図書について

平成 30 年度使用の小学校用教科用図書については、平成 29 年 6 月 1 日付「平成 29 年度宮崎県教科用図書選定審議会答申及び平成 30 年度使用小学校用教科用図書研究資料『特別の教科道徳』について」により、次のように通知されている。

(1) 採択の在り方について

(本年度の採択)

ア 小学校用の教科用図書については、本年度は採択替えを行わない年であるから、平成 26 年度に採択したものと同一教科用図書を採択すること。また、本年度新たに採択を行う小学校用教科用図書「特別の教科道徳」の採択については、以下の(2)から(4)の内容に留意することとする。

中学校(県立以外)用教科用図書については、本年度は採択替えを行わない年であるから、平成 27 年度に採択したものと同一教科用図書を採択すること。

(2) 採択の基準について

ア 教育基本法、学校教育法に基づき公示された小学校学習指導要領に示されている「特別の教科道徳」の目標を十分達成できるものであり、児童の発達の段階に応じた指導を行うために、系統的に編集されているものであること。

イ 教材の内容等が充実しており、道徳性を養うための指導の充実につながるものであること。

ウ 指導者及び児童にとって、使用上の利便性があるとともに、児童にとって分かりやすいものであること。

エ 地域の願いや思い、児童の実態等を考慮すること。

(3) 研究資料の作成について

ア 研究資料は、1 種目「特別の教科道徳」について作成すること。

イ 研究資料は、小学校用教科書目録に登録され、かつ見本本として送付された全ての教科用図書について作成すること。

ウ 教科用図書の調査研究を行うに当たっては、明確な観点を定めて行うこと。

エ 調査研究の観点としては、「特別の教科道徳」の目標の達成及び題材の構成・配列等、効果的な指導を行うために内容が充実しているか、指導者及び児童にとって利便性のあるものになっているかなどの角度からこれを定めること。

オ 調査研究の資料は、観点ごとに特徴を簡潔に記述し、採択に当たっての参考となるものであること。

(4) 採択の方式について

ア 採択地区内の各市町村教育委員会は、採択地区協議会を必ず設けること。

イ 採択地区協議会には、教科用図書の研究のために「専門委員」を置くこと。

ウ 「専門委員」は、県教育委員会が作成した研究資料等を活用して、「特別の教科道徳」について、採択の基準に基づき教科用図書の研究を行い、採択地区協議会に報告すること。

エ 採択地区協議会は、県教育委員会の作成した研究資料等を参考にするほか、採択地区協議会に置いた「専門委員」の研究報告をもとに、1 種を選定すること。その際、各教科用図書の特徴を踏まえるとともに、各地域の願いや思い、児童の実態等を考慮するなど、最終的な選定理由を明確にした選定にすること。

オ 採択地区内にある市町村教育委員会は、採択地区協議会において選定した教科用図書と同一の教科用図書を採択すること。

そこで、本地区では、北諸県採択地区協議会及び専門委員会を設け、県の示す観点に従って、7名の専門委員に小学校用教科用図書「特別の教科 道徳」の研究を行わせ、採択地区協議会において、調査研究報告を精査し、平成30年度使用小学校教科用図書「特別の教科 道徳」の選定を行った。

2 教科用図書選定理由

(1) 送付見本本

特別の教科 道徳

発行者No.	略称	正式名称	発行者No.	略称	正式名称
2	東書	東京書籍	116	日文	日本文教出版
11	学図	学校図書	208	光文	光文書院
17	教出	教育出版	224	学研	学研教育みらい
38	光村	光村図書出版	232	廣あかつき	廣済堂あかつき

(2) 選定

平成29年度選定

光村図書出版

(3) 選定教科用図書の特徴

- ① 題材の構成・配列については、学校生活の実態と、それに伴う児童の成長を考慮して、1年間を4つの「学習のまとまり」に分けることで、道徳的価値を高めることができるような工夫がなされている。
- ② いじめ問題について、学年の初めに配列し、友達との関係づくりに生かす配慮がなされ、いじめをしない、させない、ゆるさない、見過ごさない力を系統的に育成する題材とコラムを設定し、主体的に自分との関わりで考えられるように工夫している。
- ③ 言語活動については、学んだことや自分の心の変化を自由に書き留めて振り返ることができる「学びの記録」を活用することで、自分に自信をもち、行動につなげることができるような工夫が見られる。

(4) 主な選定理由

- ① 本地区の児童の実態から、道徳の授業の中で、「書く」活動の精選がなされ、多様な活動を展開しながら、児童が道徳的価値を深化していくことに最も適している教科書である。
- ② 同じ内容項目を含む2つの題材と、実際の生活にある課題を扱ったコラムを組み合わせた「ユニット」が年間5か所設けてあり、学習指導要領にある、「指導内容について関連的・発展的に取扱う」ことについて最も充実している、指導しやすい教科書である。
- ③ 読み物資料の後の「考えよう」「つなげよう」の欄において、児童が教材を通して考える視点や、今後自分自身が、学んだ道徳的価値にどのように向き合っていくかが示してあり、充実した指導ができる教科書である。